



利尻島ボランティアツアー 結果報告



利尻礼文広め隊
岩井・為谷・熊谷

島の主な問題点

去年の振り返り

ボランティアツアーの内容

2. 昆布づくりの後継者不足
 昆布の後継者不足を始め、様々な問題から、昆布産業が衰退
 2013年の昆布漁は、ほとんど終了しました。その結果、史上最高の生産額になり、15,600トンが、乾燥した際の昆布は約15,300トンになります。6月の調査段階では、約15,000トンくらいを予想されていたのですが、実際に収穫された量は、43年前に比べて約30%減少しています。原因としては、海水温の上昇による着生不良、病害の発生、人手不足、減少などがあります。後継者がいなくて、産地がなくなっています。

人口減少、島の過疎化により昆布生産の作業量も減り、若年層の離島志向も強まっています。ほかに漁業産業としてはホッケが盛ん！！

【見学系】
 ・島の歴史や文化を学べる見学系
 ・花や自然を理解できる体験など

一回行ったきりには足りないよ、もう一回行きたいよ、女性も参加しやすい！

観光をうまく島の魅力につけてもらおう。

島の魅力を再発見！！

スタンプラリーなどを企画して何度も来れるような企画にする。

ホテルやペンションを利用して。

- ・外来種の侵入のため、固有種の危機。
- ・昆布づくりの後継者不足問題。
- ・人口の減少、高齢化。

→ ボランティアツアーで認知度を上げる！

島の主な問題点

スケジュール

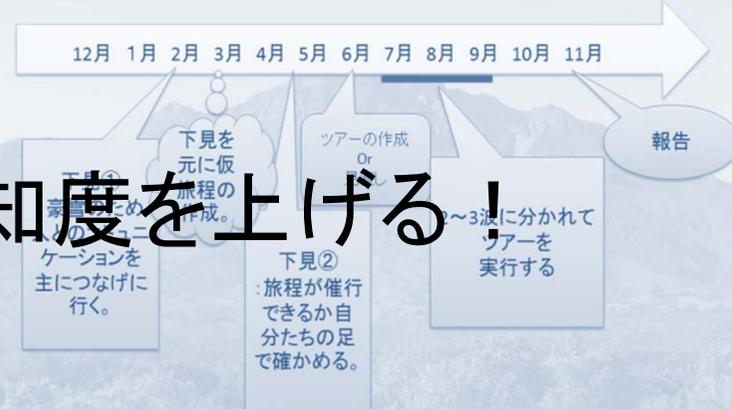
1. 外来種の進出、固有の生命体の危機

もともと島がけに生息する固有の植物、生物が外来種により生態系が崩れてしまったり、外来種は風や水、動物の糞などによりもたらされている。



最近では利尻島でも様々な外来種が確認されるようになってきた(佐藤ほか2005)利尻島は、植物の固有種が多く分布する島である。日本では利尻島にしか分布しない固有種も多く、外来種の侵入は大きな脅威を生んでいる。このように固有の生態系を、本島の固有種や外来種の侵入によって崩壊させる危険性は、利尻島で一番問題視されている外来種は、オオハコソウ(Rudbeckia laciniata)である。全島に分布域が拡大し、駆除活動が行われている(利尻島自然情報センター 2007)。一つの種が侵入してしまえば、同様の方法で他の種も侵入するのが一般的である。現在では、コウリンタンポポ(Hieracium aurantiacum)やセイヨウタンポポ(Taraxacum officinale)などの侵入も確認されている(佐藤ほか 2005)。今後も様々な種が侵入することが予測される。また、このような種が固有性の高い高山域へと侵入すれば、生態系が崩れる可能性がある。

<http://geo.africa.kyoto-u.ac.jp/ekumenno/wp-content/uploads/sites/3/36343ab5354b2d7af90916bfb0432002.pdf>から引用



仮説

昨年のボランティアツアーを企画した時の仮説。

→・下見に行くことにより、島民との交流が深められる。

・大学生への日本の島に対する興味が増加する。

・参加者がしまへの興味と再び行くことへの興味を持つ。

・島への活性化へのつながり。

下見について。～目的～

【2月】

各方面の協力者となりうる方々との打ち合わせ、取材等
→島に初めて訪れたため、まずはどのような島かを実際に確かめる。

各方面の方々が島でどのような活動をしているのか、おしえてくださったり、話を伺いました。

【5月】

各方面の方々とツアーの最終調整とツアーコースの視察。
→島におとづれるのは2回目のため、実際にツアーを考え、そこに関係してくる方々と最終調整や様々なシチュエーションに対してどのように対処するかなどを話し合いました。



2月の下見



行った場所

- ・利尻島ガイドセンター(島内観光地島視察)
- ・利尻町役場(外来種オオハンゴンソウ)
- ・利尻町観光協会、利尻富士町観光協会(利尻町の観光に対する取り組み)
- ・利尻町教育委員会
- ・利尻漁協



決定事項

まずは利尻島について簡単ながら知ることができた。島の方々はとても協力的で私たちの話を親身になって聞いてくださった。

教育委員会で子供達と触れ合う時間は残念ながら子供たちがクラブ活動に勤しむ子供が多くツアーに組み込むことは難しいようだった。しかし、外来種活動、漁業関係に関しては協力的でお手伝いをさせてくださるようでした。

2月の活動報告



←利尻町観光協会の方々に利尻島について教えていただきました。
ここでたくさん質問やお話させていただきました。



漁業組合の親方に昆布の作り方を丁寧に教えていただきました。
昆布の実物や昆布の作り方を写真でわかりやすく、とても面白かったです。



←外来種駆除の活動をしている役場の方にどのような活動をしているかお話を伺っているシーン。
外は雪でオオハンゴンソウは埋もれてしまっているので動はできなかった。



5月の下見



行った場所

- ・ハートランドフェリー本社の方との顔合わせ。
- ・利尻島ガイドセンター(島内観光視察)
- ・利尻町、利尻富士町合同打ち合わせ
- ・漁業組合打ち合わせ
- ・利尻町役場 外来種駆除活動打ち合わせ

決定事項

日程、各工程、詳しいツアー内容等。

実際に自転車を借りて近くの観光名所へ行ってみたり、外来種駆除に必要な道具、宿探しなど。また、近くで買い物を出来る場所などを自分たちの足で探した。



5月の活動報告



←オオハンゴンソウの駆除体験を5月にさせていただきました。5月の時期だとまだ30cmほどしかなく簡単に抜くことができました。左下の写真は夏にはこの高さになるイメージで比較した写真です。



下の写真は利尻町、利尻富士町の両観光協会の方々と合同打ち合わせの写真です。↓



ボランティアツアーのスケジュール

日付	スケジュール	宿泊地
8月7日(金)	9:30 羽田空港第2ターミナル集合	ゆーに
	10:30 羽田空港発 ANA571便	コテージ
	12:30 稚内空港着 (路線バス移動)	
	16:30 稚内港発 (フェリー)	
	18:10 鴛泊港着(マイクロバス移動)	
	ゆーに到着	
8月8日(土)	9:00 ゆーに出发	ゆーに
	晴天時 自転車にて島一周観光	コテージ
	雨天時 マイクロバスにて観光	
	16:30頃 ゆーに到着(到着時間変更有り)	
	17:00 事前学習	
8月9日(日)	9:00 ゆーに出发	秀峰北の宿
	9:30 外来種駆除活動	
	11:00 終了予定	
	午後 自由時間	
8月10日(月)	午前中に漁業体験(雨天時は変更有り)	秀峰北の宿
	午後 自由行動	
	16:30 事前学習	
8月11日(火)	午前中に漁業体験(雨天時は変更有り)	ゆーに
	午後 うにうにフェスティバルのお手伝い	バンガロー
8月12日(水)	8:00 ゆーに出发	
	8:30 鴛泊港出发	
	10:10 稚内港着(路線バス移動)	
	15:45 稚内空港出发 ANA574便	
	羽田空港到着	

参加者について

明海大学
ホスピタリティ・ツーリズム学部

教授 1名
学生7名(内:4年1名、3年3名、2年3名)

引率 企画者 1名

計 9名の団体旅行

※各所、天候により
変更有り。

ツアーの様子

1日目



ハートランドフェリーの操舵室！
役場の方々の配慮により特別に中を見学させていただきました。
どんどん近づく利尻島にみんな見とれて30分くらいお邪魔させていただきました。
みんなとても興味津々。

2日目



2日目は島一周サイクリング！
天気はまずまず良好！北の鵜泊から右回りに一周するコース。役場の方が用意してくれた自転車に乗って島を回ろう！
海沿いをずっと回っていくコースのため、常に潮の香りと涼しい風が一緒についてきます。
順調だったのだが、途中で大雨にあたり、サイクリングは途中で断念せざるを得なくなりました。

2日目



大雨にあたり途中から車で移動！
予定になかった利尻町博物館へ急遽立ち寄りしました。
ここでは利尻島の歴史はもちろん、それ以外に利尻島に生息している動物の剥製や漁業の歴史物が展示されていました。そこでたまたま居合わせた学芸員の方にニシン漁の歴史について説明して頂いている場面です。いきなりにもかかわらず、丁寧に教えていただきここでも島民を温かみに触れました。

3日目

レクチャー中



3日目には外来種駆除活動を行いました。
人の身長をゆうに超えるようになっていたオオハンゴンソウを引っこ抜くのはとても大変。
お年寄りの多い利尻島民でやるのは確かに大変な作業でした。しかし、みんな黙々とやっており、約1時間で計150本ほど抜くことができました。参加者に感想を聞いたところ、大変だったけどむしろもっとやっていたかった！など、想像していたよりも楽しみながらボランティア活動ができたと思います。

集計中...



4日目



島に来てから天気が良くなく昆布の天日干しの作業がなくなってしまいました。しかし、漁協組合の方の配慮により昆布の製品作りを午前中にさせていただくことになりました。2組の親方の倉庫へお邪魔して乾燥した昆布を切って製品へ加工する作業です。お二方ともとても親切で、ご家族で製品加工をしている親方だったのでここでも島民の方とお話することができました。

午後には最近観光施設として売り出そうとしている神居海岸パークでうに取り体験と昆布の製品作りの体験をさせていただきました。



自分で取ったうには自分で向いてその場で食べれます！！



はい、ウーニ！（はい、チーズ！）

5日目



島の駅では、海藻によるアート作品を見させていただきました。

うにの養殖センターへの見学。小さなうにの赤ちゃんがたくさん桶の中にいました！



この日の早朝にはウニ漁が行われ、昆布漁師の方々が朝にうにを向いていました。



うにうにフェスティバルでは、商工会や役場の方々、島民の方々とたくさんお話できました！

6日目

ついに島を離れる日。
6日間島に滞在していましたが、
みんなすごく短く感じた。
もっと長くいたいと言っていました。
そしてフェリーの港には役場の方と
ガイドセンターの西島さんが
見送りをしてくださいました。



船に乗ったあと、フェリーからどんどん
離れていくお世話になった島民のみなさんに
手を降る参加者達。
少し目を潤ませて、涙を流している参加者も
いました。
このフェリーで見送られる感覚は、島を訪れた
ときにしか味わえない感覚です。
来る前よりきっと参加者は利尻島のことを好きに
なってくれたことでしょう。

収 支 報 告

収 入

同窓会予算	800,000
ツアー代金	574,500
雑費	4
計	1,374,504

支 出

交通費	839,400
宿泊費	306,780
食費	102,612
委託料	79,000
保険料	6,300
通信費	3,361
印刷費	3,456
雑費	32,873
計	1,373,782

まとめ

今回の利尻島ボランティアツアーを実施してみて、いろんなことを学び、分かりました。

参加者

大学生は旅行へ行きたいと思うとき、島に行く選択肢があることが分かった。その中で、一番引がかかることは、旅行費であることが分かった。今回の参加者は全員が本当に島のことを好きになってくれたことがわかったが、旅行に参加する前までは利尻島のことは知らなかったらしい。

島民

利尻島だけなのかはわからないが、利尻島の島民は自然と外から来る人を迎え入れるホスピタリティがあることが分かった。島自体が観光産業と漁業の二つで経済を支えているため、思った以上に観光に力を入れていることが分かった。

プロジェクトメンバー

何かをなし得るためには一人ではできなくて必ず誰かの力を借り、協力して行わなくてはならない。その為に、それ相応の責任を負うべきことが分かった。また、実際にツアーを企画してみて、授業で机の上で習うことではかばいきれず、ものすごくたくさんの方の協力を得て、行われることが分かった。

今回の旅行で利尻島に再び参加者たちが遊びに行ってくれること、今回行ったことをいつまでも忘れないで欲しいと思いました。

ご視聴ありがとうございました。

